

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 ひびきが丘 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.1	65	9.0	64
全国	8.9	64	9.3	67

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 正答率については、「話すこと・聞くこと」が全国平均を上回り、「読むこと」についても同程度に近づいている。特に、「伝統的な言語文化に関する事項」では、大きく全国平均を上回っている。 「書くこと」の問題に課題が見られる。各教科の学習の中で、自分の考えを書く活動や、書いたことを基に伝え合う活動を行う時間を保障し、書くことへの抵抗感を減らす必要がある。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて、本や文章を概観して効果的に読む問題や漢字を文の中で正しく使う問題、ことわざの意味を理解する問題の正答率は高かった。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く力を要する問題に課題が見られる。
算数	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 各領域において全国平均と同程度に近づいている。その中でも、「数量関係」は全国平均を上回っている。 「図形」は、他の領域に比べ課題が見られる。教科書の中でも、取り扱う頻度が低い領域であるので、算数タイムや補充学習、家庭学習などで計画的に取り組ませる必要がある。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 棒グラフから資料の特徴や傾向を読む問題や、加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする問題の正答率が高い。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する問題の正答率が低い。

4. 学校での学習活動, 家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 国語科, 算数科ともに、「好きですか」「大切だと思いますか」の問いに対して、肯定的な回答をした児童が非常に多い。「読書は好きですか」に対しても肯定的な回答が多く見られる。これらのことから、知的好奇心が高く学ぶことへの意欲も高いことが感じられる。その一方で、国語科「自分の考えを話したり書いたりするときに、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか」や、算数科「問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いていますか」の問いでは、肯定的な回答が低い。 「地域の行事に参加している」や「地域・社会の出来事に関心がある」児童の割合が増えている。今後、さらに継続して、PTAや地域と連携しながら、児童・保護者に啓発するとともに、地域とのつながりの大切さを価値付けていく。 「毎日同じくらいの時刻にねていますか」「起きていますか」の問いが全国平均に対して依然として低い傾向がある。今後、PTAと連携しながら、PTA理事会・学校(学級)通信、懇談会等で、児童・保護者に啓発していく。

5. 調査結果から明らかになった, 課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<p>全校では、各教科の学習において、自分の考えを書く活動や、伝え合う活動を行う時間を保障する。特に、まとめや振り返りを書き、伝え合う習慣を形成する。学年及び学級では、既習学習の定着の度合いを把握するため、学力定着サポートシステムを活用する。日々の学習や単元末テスト、基礎基本定着シートなどを活用して、学級の課題を明確にとらえて指導し定着を図る。</p>

② 家庭生活習慣等に関する取組

<p>日々の学級指導の中で、家庭生活習慣について意図的に指導していく。学級活動や学校行事の中で、とくに「日常の生活や学習への適応」や「健康安全行事」と関連付けながら、継続的に児童へ指導していく。学校(学級)通信や保健だより・PTAだより等を通して、学習習慣・生活習慣の見直しと改善を保護者へ啓発していく。</p>
--